

普仙寺だより

第132号 平成18年3月



平成18年2月25日普仙寺御忌(ぎよき)法要にてお説教している普仙寺住職

三宝礼 (さんぼうらい)

浄土宗のお経の続き。「香偈」([17年10月号](#)に解説)の次の「三宝礼(さんぼうらい)」の文は、

- 一心敬礼十方法界常住仏(いっしんきょうらいじっぽうほうかいじょうじゅうぶ)
- 一心敬礼十方法界常住法(いっしんきょうらいじっぽうほうかいじょうじゅうほう)
- 一心敬礼十方法界常住僧(いっしんきょうらいじっぽうほうかいじょうじゅうそう)

の3行です。

1行目の一心敬礼十方法界常住仏

読み 一心に敬って十方法界に常住する仏を礼したてまつる

意味 心をひとつにして敬い、あらゆる世界に、変わることなく常にましますみ仏に
礼拝します

2行目の一心敬礼十方法界常住法

読み 一心に敬って十方法界に常住する法を礼したてまつる

意味 心をひとつにして敬い、あらゆる世界に、変わることなく常にましますみ仏の
教えに礼拝します

3行目の一心敬礼十方法界常住僧

読み 一心に敬って十方法界に常住する僧を礼したてまつる

意味 心をひとつにして敬い、あらゆる世界に、変わることなく常にましますみ仏の
教えを伝える僧を礼拝します

解説

三宝(さんぼう)とは仏教徒が大切にする3つの「宝もの」のことで、「仏」「法」「僧」をいいます。

「仏」はインド語「ブツダ」のことで、「悟られた方」を意味します。

「法」はインド語「ダルマ」のことで、「法則・法律・規範・教義、ここでは仏の教え」を意味します。

「僧」はインド語「サンガ」のことで、「集団・団体、ここでは仏弟子達」を意味します。

御忌会 (ぎよきえ)

平成18年2月25日の普仙寺御忌会には、檀信徒の皆様多数ご参詣くださり、ありがとうございました。写真は普仙寺本堂でお説教を弔問されているところです。



平成18年2月25日 普仙寺御忌法要で法話を弔問される檀信徒の皆さん

詠唱奉納

去る2月25日の御忌会において、普仙寺詠唱講の皆さんに詠唱奉納して頂きました。お唱え5曲とお舞1曲を発表しました。



平成18年2月25日 普仙寺御忌法要で詠唱奉納される講員の皆さん

演劇案内・欲望という名の電車

アルコールに溺れる日々を過ごすブランチは、父の死を機に妹ステラのもとを訪ねた。ある日、ブランチは義弟の友人ミッチと出会い、結婚を考えるまでに惹かれてゆく。しかし、ブランチをを嫌うステラの夫・スタンリーがミッチにブランチの過去を暴露し…。テネシー・ウィリアムズ原作の舞台作品です。

豊橋公演

日時

2006年3月18日(18:30)、19日(14:00)

場所

豊橋市民文化会館ホール

料金

前売り2,000円、当日2,500円

豊橋公演のチケット予約・問い合わせ

豊橋文化振興財団(0532-61-6145)



演劇案内・人形浄瑠璃 文楽

豊橋公演

日時

2006年3月21日

(昼の部14:00開演、夜の部18:00開演)

場所

豊橋市民文化会館ホール

料金

A指定席4000円(当日4500円)

B指定席3500円(当日4000円)

問い合わせ

豊橋文化振興財団(0532-61-6145)

昼の部1:芸術体験プログラム

参加者を募り舞台上で文楽体験をします。

昼の部2:お染 久松 新版歌祭り文 野崎村の段

二人の恋愛が引き起こす新たな悲恋を描いた「野崎村」は、非常に人気の高い、文楽を代表する演目の一つとなっています。

大坂の油屋に奉公する丁稚久松は、養父である野崎村の百姓久作の妻の連れ

子おみつと許婚でありながら、店の娘お染と相思相愛の仲でした。しかし、主人と奉公人の許されぬ恋であるうえ、お染には縁談がまとまり、二人の前途に希望はありません。しかも、悪人に店の金をだまし取られた久松は、野崎村へ戻されてしまいます。久松との結婚をひたすら楽しみにして来たおみつは、思いがけずすぐに祝言を挙げることになり、大喜び。ところが、そこへ訪れたのは、“久松と別れるなら死ぬ”と激しい恋心を抱くお染でした。

この恋の過ちを久作に諭され、別れることを約束する二人。けれども、そこに心中の覚悟を見抜いたおみつは、二人を添わせるために、久松との結婚を諦め、尼となるのでした。待ち望んだ祝言の喜びも束の間、自らの幸せを投げ捨てざるを得なかった娘の悲しみが、強く胸を打つ作品ですが、段切には一転して華やかな曲が付けられ、みごとな効果を上げています。

夜の部1: 冥途の飛脚

大坂の飛脚屋亀屋の養子忠兵衛は、深い仲の遊女梅川に別の客の身請け話が持ち上がったことから、友人丹波屋八右衛門に渡す為替金を無断で使い込み、身請けの手付にしました。この事情を正直に話して詫げる忠兵衛に、八右衛門は同情しますが、その行く末を危ぶみ、忠兵衛が金に困っていることを、廓の人々に明かし、これ以上忠兵衛を寄せ付けないように頼みます。ところが、これを立ち聞きした忠兵衛は、八右衛門に面目を潰されたと誤解して逆上し、為替金の封印を切るという重罪を犯して、武家屋敷に届ける大切な金で、梅川を身請けするのでした。

引き裂かれる寸前の梅川・忠兵衛の追い詰められた心情はもちろん、人間の弱さや愛の強さ、また廓の雰囲気などが緻密に描かれた、近松門左衛門の世話物の最高傑作の一つです。

夜の部2: 花競四季寿より 鷺娘

文化6年(1809)に初演された景事で、春の「万歳」、夏の「海女」、秋の「問寺小町」、そして今回ご覧いただきます冬の「鷺娘」といった、四つの情景から構成されています。降りしきる雪の中、白無垢姿の美しい鷺の精が春に思いを寄せる、情緒あふれる舞台をお楽しみ下さい。



[文楽協会ホームページはこちらをご覧ください。](#)

800年前の法然上人

今から800年前、元久3年(西暦1206年)の2月、法然上人の周辺では大変な事件が起きていました。「浄土宗大年表」からの孫引きですが、蔵人頭という役であった藤原長兼の日記「三長記」によると

2月14日、院宣を下して行空、遵西を召し、配流とす。興福寺の衆徒承服せず法然上人は行空を波紋にする。

2月16日、18日、諸卿、念仏宗停止口宣について評定する。

2月19日、長兼、念仏口宣について興福寺の貞慶に問う。興福寺の衆徒、宣下に服せず、藤原良経の邸に至り、専修念仏停止を奏することを請う。

2月21日、興福寺の衆徒、宣下について、藤原兼実に強訴する。

2月22日、長兼、興福寺の衆徒の使いを召し、宣下の改めがたきを伝え、慰撫する。

「円光大師行状画図翼賛卷三十一」によると、

2月30日、今朝源空上人の弟子二人、念仏を弘通せんとして、諸仏諸教を誹謗するに依り、罪名を勘えらる。

以上のことから、次のようなことが考えられます。

今から800年前、奈良興福寺から、法然上人の説く専修念仏を禁止せよという圧力がかかり、弟子に処罰があったということです。

寺行事案内

土曜礼拝 (どようらいはい)

毎週土曜日 午前8時30分～9時

礼拝を含むお勤めです。本家、新家の別なく、どなたでもお参り下さい。

春彼岸会 (はるひがんえ)

平成18年3月21日(火・祝日) 午後1時～3時

檀信徒各家のご回向を致します。

御回向の方法に2種類ありますので、どちらかひとつをお選び下さい。

1. 封筒読み上げ回向

彼岸回向封筒に記入された先祖代々名または戒名を読み上げて、ご回向します。

回向料はお気持ちです。

2. 塔婆回向

先祖代々名または戒名の塔婆にてご回向します。

所定の申込用紙にて事前にお申込下さい。回向料は1霊3,500円です。

春の茶会 (はるのちゃかい)

平成18年3月21日(火・祝) 午前9時～午後1時

檀信徒会館の和室でお抹茶をご用意します。

牟呂お堂巡 (むろ おどうめぐり)

平成18年3月21日(火・祝) 午前中

市場弘法堂・中村弘法堂・普仙寺・大西観音堂

宗住寺にて参拝スタンプを捺してお参り下さい。